

200年に一度の大雨で荒川決壊、その時どうなる

2015年9月12日
朝日新聞

荒川決壊 最悪3500人死亡

内閣府想定 200年に一度の豪雨で

鬼怒川の堤防を決壊させた記録的豪雨。都内でも200年に一度の大雨になれば荒川が決壊し、最大3500人の死者が出るとの想定を内閣府が出している。東京は水害に弱く、鬼怒川の災害は決してひどくではない。

住民「ひとつごとじやない」

墨田区墨田地区には「海抜マイナス1・4m」と周囲に改めて訴えたい

200年に一度の大雨で荒川決壊 その時どうなる



荒川の過去の水位(北区の基準地)と対応基準	海面からの高さ(m)
堤防の高さ	12.5
◆1947年のカスリーン台風	8.6
決壊の危険性が非常に高まる200年に一度の大雨時(想定)	8.57
◆1941年の台風	8.27
洪水の危険性が出る	7.7
◆1958年の狩野川台風	7.48
住民の避難を判断する	7
◆1999年の熱帯低気圧	6.3
◆2007年の台風	5.09
洪水に注意する	4.1
◆今回の大雨	3.43
水防団が待機する	3
平常時	1~2

「この地区の堤防が切れたらと思うとすごく怖い」

隅田町東町会の有村哲哉会長(74)は、2階建ての自宅を置くことを真剣に考えた。災害時は自分で自分の命を守る重要性を周囲に改めて訴えたい

江東区亀戸9丁目。町会長の鶴田慶三さん(76)は、1958年に堤防が台風で壊れた時、胸まで水につかる経験をした。「ひとつごとじやない」。町会では2012年、寄付を募るなどしてカヌー5艇を買った。近くの高層マンションで3人で暮らす青山めぐみさん(37)は09年にこのマンションを購入した。営業マンの話も聞いて大丈夫だとは思っているが、「自然災害は計り知れない」との不安もある。

国土交通省荒川下流河川事務所(北区)によると、荒川は流域の72時間雨量が548mmを超す「200年に一度の大雨」になると、各所で堤防決壊の可能性が非常に高まる。

今回の豪雨では、流域の雨量は101時間で214mm。一年に一度ある程度の大雨(同事務所)だった。氾濫危険水位まではまだ約4分の余裕があった。一方、気象庁によると、鬼怒川流域の72時間雨量は370mm。上流の栃木県日光市では633.5mmを記録し、部分的には荒川の堤防を決壊させるほどの豪雨になった。

低地襲う氾濫、浸水5メートルも

内閣府が2008年に出した被害想定は墨田区を決壊の想定地とする「江東デルタ貯留型氾濫」や、北区志茂を想定地とする「右岸低地氾濫」など、複数のパターンを示す。

最も多くの死者が出るのは、荒川や海面より低い地域を襲う「江東デルタ貯留型氾濫」。水深が5メートルに達する住宅地も出る。排水施設が順調に稼働し、水門が操作できても、住民の避難率40%で5000人、避難率80%でも200人が死亡すると試算している。

「右岸低地氾濫」では最大約2千人(足立区600人、荒川区500人、北区500人、台東区400人、板橋区20人、ネたま市20人)が死亡すると想定。上流の埼玉風決壊し、都内で死者が出るケースも想定されている。

死者は、2階建てに住む65歳以上が逃げ遅れ、約5分の浸水で0超がなくなる、など計算している。

医師や看護師、茨城へ52人派遣
都、患者搬送など担

北関東・東北の豪雨で都は11日、災害派遣隊チーム(DMAT)の指揮機関から、医師や看護師ら11チーム52人を茨城に派遣した。同県内で温した病院2カ所の入院患者を別の病院へ搬送する作業や避難所の支援などにあるといふ。また、被災地ニーズを探り、適切な支援につなげるため、課長や級職員1人も派遣した。